

平成 23 年度 血液凝固異常症全国調査のまとめ

平成23年度の血液凝固異常症全国調査は1,222施設(1,374担当部所)に調査用紙を送付し、平成23年5月31日時点における状況を報告していただくよう依頼した。調査対象期間は平成22年6月1日から平成23年5月31日までの1年間である。

新規に報告された症例による増加と、調査期間における死亡報告および調査期間以前の死亡例で新たに報告されたものによる減少を総合すると、平成23年5月31日現在で集計した日本全国に生存する血液凝固異常症の総数は、下表に示すように6,986例(HIV非感染6,226例、HIV感染760例)となった。このうち、小児の血液凝固異常症の総数は1,155例であった。

日本全国における血液凝固異常症総数

	血友病A	血友病B	VWD	類縁疾患	小計
HIV非感染生存	3897	799	977	553	6226
(男性)	3868	786	442	298	5394
(女性)	29	13	535	255	832
HIV感染生存	578	172	7	3	760
(男性)	578	172	2	0	752
(女性)	0	0	5	3	8
HIV非感染・感染生存合計	4475	971	984	556	6986
(男性)	4446	958	444	298	6146
(女性)	29	13	540	258	840
AIDS発症(生存)	120	39	2	0	161
(男性)	120	39	0	0	159
(女性)	0	0	2	0	2
HIV感染死亡(累積)	509	153	1	9	672
(男性)	507	151	1	7	666
(女性)	2	2	0	2	6
HIV感染総数(生存および累積死亡)	1087	325	8	12	1432
(男性)	1085	323	3	7	1418
(女性)	2	2	5	5	14

調査期間におけるHIV非感染の死亡報告は17例、HIV感染の死亡報告は14例であった。このうちHCVの感染が原因と考えられる重篤な肝疾患が死因である報告は、HIV非感染6例、HIV感染7例であった。このようにHIVの感染の有無にかかわらず、主にC型肝炎ウイルスを原因とした重篤な肝疾患が今年度も死因の中心を占めた。

このような状況において、この1年間にC型肝炎ウイルス感染に対してインターフェロン治療が行われた報告数は、HIV非感染血液凝固異常症で131例、HIV感染血液凝固異常症で57例であった。

また、肝庇護剤については、グリチルリチン(強ミノファージェンC(静注用))65例、ウルソデオキシコール酸213例の使用報告があった。

HIV感染症例においては、新たなAIDS指標疾患の発症は少数で、かつ、死亡時にAIDS指標疾患を有する例も少なくなっている。さらに、今年度のCD4陽性リンパ球数の平均値は482.1/μL、HIVのRNAコピー数は40 copies/ml未満が約80%と、HIVに関してはこれまでに引き続き比較的良好な状態が保たれている。

血液凝固異常症全国調査は本邦における血液凝固異常症の全体を調査対象とし、その現状および問題点を把握するための唯一の調査であり、今後も調査票の回収率の向上に努めつつ、慎重な調査を継続していきたい。